

# 景況レポート

(3月分・情報連絡員80名)

## 景況DI値が再び後退

### 【概況 (全体)】

3月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが12.5%(前回調査8.8%)、「悪化」が40.0%(同32.5%)で、業界全体のDI値は-27.5となり、前月調査と比較して3.8ポイント下回り、4ヶ月ぶりに改善した前月から再び後退に転じた。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の製造業のDI値は依然として上回っており、全体の景況DI値を押し上げている。一方、非製造業は、前月に引き続き需要の停滞等により低調に推移した。

### 【業界別の状況】

業界別では、食料品や木材・木製品、小売業、商店街などで景況感が後退した。中でも木材・木製品では、例年に比べ需要の勢いが弱く低調に推移した。一方、運輸業(トラック)は前月に引き続き好調であったほか、建設業では一般建築等に受注の増加が見られ、悪化割合が縮小した。

全体の景況感としては、住宅着工をはじめとする需要の低迷や個人消費の停滞により景気回復を実感できない状況が続いており、また、人材不足が深刻な業界もあるなど、今後の業況については引き続き慎重に見極めていく必要がある。

### ＜全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較＞

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-27.5	-29.0	-23.6
製 造 業	-12.5	-30.0	-20.0
非製造業	-37.5	-28.2	-25.6

### ＜景況天気図＞

項目 業種	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製 造 業						
非製造業						

#### 【凡例】



#### 【天気図の見方】

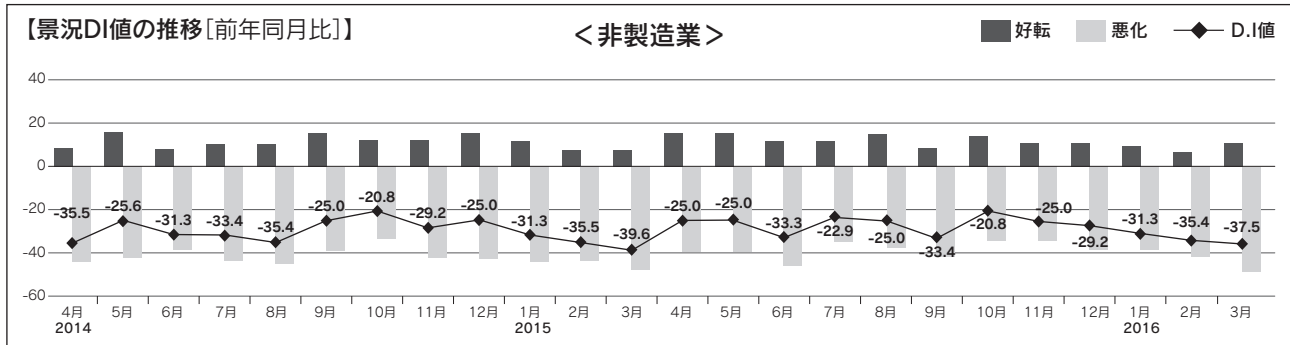
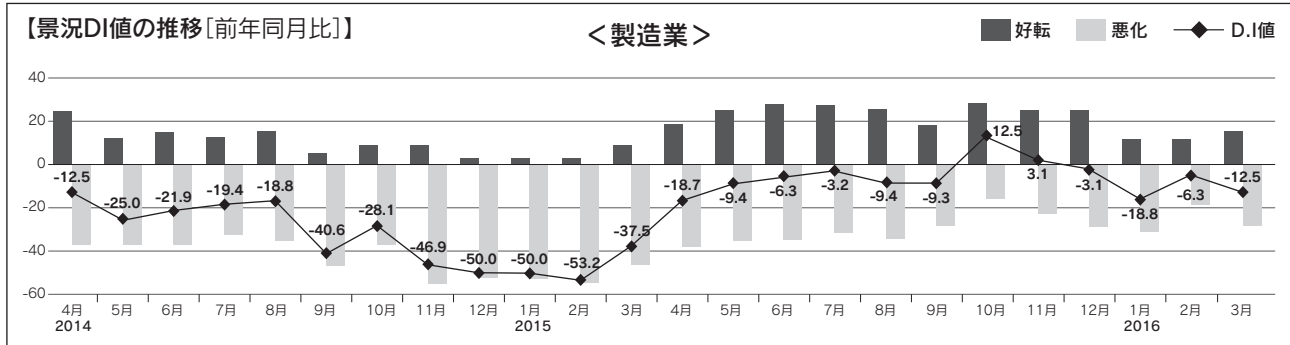
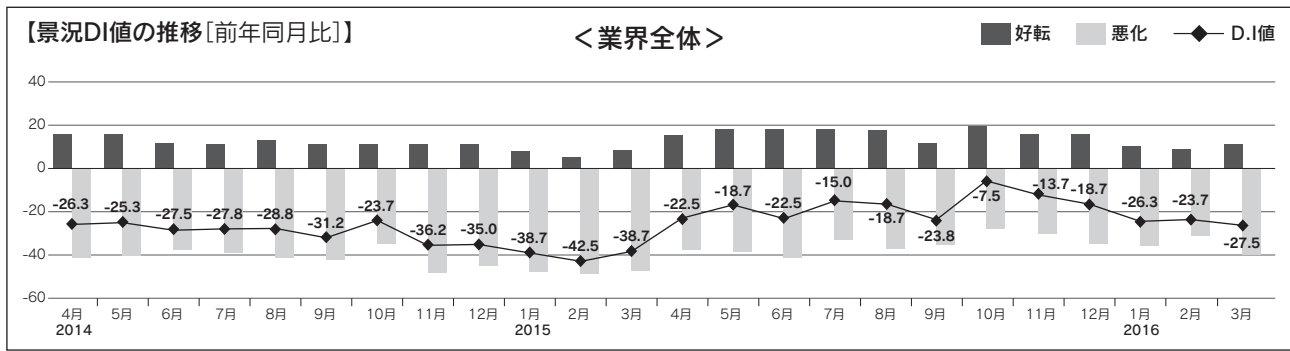
前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (製 麵)	消費者の購買意欲が低下しているためか、業績が伸びていない企業が多い。また、大手企業の低価格商品の影響も受け、組合員企業は対応に苦慮している。
食料品 (米飯給食)	3月の売上は、大手スーパーチェーンの寿司製品や宅配弁当の受注増が寄与し、前年同月比104.1%となった。
繊維工業 (ニ ッ ト)	各組合員企業の稼働状況や受注状況とも好調に推移しており、新規取引の問い合わせや期中追加生産の依頼が活発だが、小ロットの依頼が多い。なお、加工賃の改善は進んでおらず採算性はあまり良くなっていない。従業員の賃金を上げ、人員と技術者の確保をしたいところだが、思うように計画できていない企業が多い。
木材・木製品 (一般製材)	例年3月は受注が動く月だが、今年は1～2月と同じ状況であり、売上の伸びはない。4月に降りに売上が低下することが懸念される。(中央地区)
木材・木製品 (外 材)	3月の丸太輸入量は、北洋材が2,665m <sup>3</sup> であった。例年であれば住宅建築が増え、製材品流通が活発化してくる時期であるが、今年は需要の勢いが弱い。国産材は生産出荷量の最盛期となり、外材の在庫調整を図っている。
印 刷	需要の低迷が続いており、年度末の需要期にあっても非常に動きが鈍い。受注金額の改善も進んでおらず、小規模の組合員企業の脱会もあった。(中央地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	3月の出荷数量は前年同月比80.6%、平成27年度の累計では前年比83.5%で推移した。能代山本地区では前年を上回ったものの、男鹿南秋地区、秋田中央地区では前年比60%台と厳しい結果となった。
鉄鋼・金属 (機械金属)	各組合員企業により見積物件の増加・減少にバラツキが見られるが、前月と同様に受注には結びつかず厳しい年度末となった。
一般機器 (金属加工)	先行きの不透明感はあるものの、受注は前年を上回っている。しかし、依然として利幅の小さい仕事が多く短期納期物件が主体となっており、厳しい取引条件となっている。
その他の製造業 (漆 器)	3月は異動のシーズンであり、記念品としての受注が増え、川連漆器工芸館では売上目標を達成することができたほか、組合の売上も例年を上回った。平成27年度は大量の酒器の受注があった。新年度も集客を図るために様々な企画を考案している。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (商業卸)	需要の停滞や販売単価の低下等により、厳しい経営環境が続いている。(秋田市)
小売業 (自動車)	2月の新車販売台数は、登録自動車が3,734台(前年同月比93.2%)、軽自動車が3,415台(同84.3%)で、合計7,149台(同88.7%)となり、前月に引き続き2ヶ月連続のマイナスとなった。
小売業 (花卉)	3月は、秋田市中心卸売市場の花弁部門の取引額が前年同月を若干上回ったが、天候による仕入価格の上昇と、スーパーやホームセンターへの直接納品の数量が増えたためであり、逆に小売店ではそれらの店舗に顧客を奪われ苦戦が続いている。
商店街	年度末になり、飲食店では多少客足が戻ったように見受けられた。また、進入学商品を扱う店舗では来客が多くなったが、生徒数の減少が影響し、売上は前年同月比で若干減少となった。(大館市)
サービス業 (旅行)	3月の売上は、前年同月比で国内旅行が110%、海外旅行が61%となった。海外旅行は低調に推移しているが、国内旅行は若干持ち直しが感じられる。
サービス業 (タクシー)	速報値では、前年同月比で運行回数が94.7%、運送収入が95.3%と前年同月を下回った。好天であったことも影響しているが、乗務員不足により稼働率が低下し、需要に対応しきれないことが大きな要因となっている。
建設業 (一般建築)	国、県等の補正予算やゼロ国債、ゼロ県債による工事の受注があり、前年同月並みの事業量が確保された。
建設業 (電気工事)	雪解けの早さからか、受注は新築・増築工事ともに件数が増加傾向にある。しかし、人材不足が深刻な課題となっている。(大仙市)
運輸業 (トラック)	3月は売上、収益とも順調に推移し、前年同月比では大幅に増加した。また、燃料価格が安値で推移しているため、収益状況は良好に推移している。(県南地区)
その他の非製造業 (砂利採取)	公共工事が大幅に減少しており、骨材の出荷量は前年同月比で25%落ち込んだ。(県南地区)